

評価項目の設定（案）

- (1) 「検討対象候補地の評価・絞り込み」を行うため、スタジアム利用者（観客）の視点、周辺環境への影響の視点、事業性の視点などを踏まえて、以下の評価項目を設定する。
- (2) 各評価項目の調査・検討は、「検討対象候補地の詳細検討」で実施する。

大項目	小項目	内 容	検討対象候補地の 詳細検討内容との関係
1 用地条件	規模制約	適正規模の施設の配置可能性	適正スタジアム規模検討
	法的制約	各種の法的制約事項	適正スタジアム規模検討
2 環境条件	周辺環境	周辺環境への音、日照などの影響	適正スタジアム規模検討 事業化検討
3 アクセス性	公共交通利用	公共交通を利用したアクセス性	交通処理検討
	自動車利用	自動車を利用したアクセス性	
	広域利用	新幹線、飛行機を利用したアクセス性	
4 牽引性		広島市・広島都市圏の発展を牽引するための中枢性・求心力が得られるか	付加すべき機能検討
5 発信性		広島を印象づける施設となり得るか（周辺施設との関係）	付加すべき機能検討
6 付加機能		新たな付加機能の利用可能性（周辺特性、交通手段等）	付加すべき機能検討
7 経済やまちづくりへの波及効果		市域及び立地地域の経済やまちづくりへの波及効果	事業化検討
8 周辺機能との連携		周辺のホテル、商業施設等の既存都市機能との連携の可能性	付加すべき機能検討
9 コスト性	整備コスト	建設コスト、周辺インフラ整備コスト	事業化検討
	維持管理コスト	維持管理コスト	
10 迅速性		施工の容易性（施工期間）、諸問題の克服に要する期間	事業化検討

AHPによる評価項目の重みづけ設定

(1) AHP (階層分析法) の説明

- 主観が含まれているかもしれない専門家の評価結果を客観的な統計処理により、それぞれの意見を公平にまとめることができる「AHP法 (階層分析法)」を活用して、絞り込みのための評価項目の重みを数値化し、検討対象候補地の評価結果を定量的に示す。

(2) 実施方法の説明

- 協議会委員にアンケート形式の質問 (絞り込み項目等について一対比較形式: 2 項目について“どちらが重要”を質問する形式) を実施し、統計的手法により評価項目の重みを数値化する。
- 評価時の立場は、各団体としての立場で評価する。

◆ AHPによる項目の重みの数値化の例

評価項目	重み	商品 A	商品 B	商品 C
価格	...	○	◎	△
品質	...	◎	○	○
ブランド	...	◎	△	○
		◎ : 2 ○ : 1 △ : 0	◎ : 1 ○ : 1 △ : 1	◎ : 0 ○ : 2 △ : 1

《項目の重みにより評価結果が変わる》

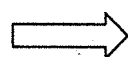
○一対比較法

- 「価格」「品質」「ブランド」の重みを一度に数値化することは困難であることから、「価格と品質」「価格とブランド」「品質とブランド」などの 2 項目間について、相対比較する。

■ 一対比較表

	評価項目 (左)	左の評価項目が					右の評価項目が				評価項目 (右)
		絶 対 的 に 重 要 で あ る	か な り 重 要 で あ る	重 要 で あ る	やや 重 要 で あ る	同 程 度 で あ る	やや 重 要 で あ る	重 要 で あ る	か な り 重 要 で あ る	絶 対 的 に 重 要 で あ る	
比較①	価格							●			品質
比較②	価格		●								ブランド
比較③	品質						●				ブランド
<ポイント>		9	7	5	3	1	1/3	1/5	1/7	1/9	

	価格	品質	ブランド
価格	1	5	7
品質	1/5	1	1/3
ブランド	1/7	3	1



(統計処理)

重み
0.738
0.092
0.170

(3) 評価項目の一対比較

- ・「用地条件」については、建設コストはかかるが施設整備の工夫により解消可能であり、「環境条件」については、悪影響を及ぼす状態で放置することはできず、より良い状態とする必要があるため、重みづけによる優劣を付けることは適当でないことから、一対比較の項目から除外する。
- ・小項目間では、比較が難しい（判断が難しい）ことから、大項目間で一対比較を行い、重みを算定する。

大項目		小項目	内 容
1	用地条件	規模制約	適正規模の施設の配置可能性
		法的制約	各種の法的制約事項
2	環境条件	周辺環境	周辺環境への音、日照などの影響
3	アクセス性	公共交通利用	公共交通を利用したアクセス性
		自動車利用	自動車を利用したアクセス性
		広域利用	新幹線、飛行機を利用したアクセス性
4	牽引性		広島市・広島都市圏の発展を牽引するための中枢性・求心力が得られるか
5	発信性		広島を印象づける施設となり得るか（周辺施設との関係）
6	付加機能		新たな付加機能の利用可能性（周辺特性、交通手段等）
7	経済やまちづくりへの波及効果		市域及び立地地域の経済やまちづくりへの波及効果
8	周辺機能との連携		周辺のホテル、商業施設等の既存都市機能との連携の可能性
9	コスト性	整備コスト	建設コスト、周辺インフラ整備コスト
		維持管理コスト	維持管理コスト
10	迅速性		施工の容易性（施工期間）、諸問題の克服に要する期間

太枠内の項目：一対比較の項目（重みづけを検討する項目）